

雪安定度の研究」

功績賞：対馬勝年氏（富山大学名誉教授）

「雪氷の摩擦や利雪の研究・教育と学会運営への功績」

論文賞：隅谷大作氏，上田保司氏，および生頼孝博氏（株式会社精研）

「曲面における砂凍土の凍着に関する基礎実験」

9.2 雪工学会開会式と記念公演

恒例の日本雪工学会大会開会式は9月24日午後1時からB会場で行われました。合同大会が順調に運営されている現在，このセレモニーの本質的な役割は後半の学会賞記念講演に移っています。会は沼野総務委員長の司会で始まり，植松康会長が挨拶に立って，「雪氷研究大会」として全国大会を合同開催する意義と，その中で雪工学会の果たすべき役割を述べ，学術研究，公開パネルディスカッションが有意義かつ活発に行われる事への期待で締めくくりました。引き続いて平成19年度雪工学会学術賞受賞の阿部修氏（野外観測に基づく建築物の雪害防止に関する研究），同学術奨励賞受賞の藤本明宏氏（熱・水分収支型路面雪氷状態モデルの開発）の講演があり，活発な質疑

が行われました。

10. おわりに

本大会は，2学会の本格的な合同大会とすることが最大の眼目で，準備作業はそれなりに時間と労力が掛かり，準備委員，実行委員になって頂いた方々には従来以上の負担が掛かったと思います。大きな意見の相違も争いごともなく，無事に済んだことはひとえに，過去3年の経験を経た両学会の皆様の融和を願う真摯な心がけの賜でしょう。お陰様で，大会参加条件の統一，講演要旨集の合冊化など，合同運営の基礎がほぼ固まったものと考えております。しかし，細部については少なからず遺漏があることも事実です。これらの点については，詳細な反省録をとりまとめ，次期実行委員会および各学会の事業委員会に引き継ぐことといたします。

また，本大会は，多くの協賛企業・団体のご厚志による企業展示および広告掲載というかたちで，財政面を手厚く支えて頂きました。末筆ながら，改めて御礼申し上げます。

(2008年11月29日受付)

雪氷研究大会 (2008・東京) に関するアンケート調査結果

雪氷研究大会 (2008・東京) 大会実行委員会 成田秀明

雪氷研究大会 (2008・東京) の運営を参加者がどのように受け止めてくれたかを把握し，今後の運営のあり方を探るべく，前年の富山大会に続いてアンケートを実施しました。回答者は95名に達し，まずまずの回答率でした。

日本雪氷学会と日本雪工学会の全国大会を同時期に同じ会場で開催するという企画は3年前の旭川大会ではじめて実行に移されました。この「同時開催」の方針は秋田，富山大会に受け継がれ，ほぼ両学会参加者のコンセンサスを得られているとの判断に立って，今回の東京大会では本格的な「合同

大会」を目指して大会運営を行ってきました。

アンケート結果を概観すると，実行委員会の目指すところは概ね参加者の賛同を得られたと判断できます。

特に大会運営の会計窓口をひとつにして，「合同大会」として一括処理したこと，大会の学術講演要旨集を統一したことは実行委員会の「改革的な提案」のひとつでしたが，参加者には好評をもって受け入れられたことは特筆に価すると考えています。

とはいえ，まだ多くの改良すべき点が残されて

おり、次のような指摘が寄せられました。すなわち、全国大会における雪氷学会の伝統的な企画である「分科会」の運営に関する今回の実行委員会の提案はさらに検討・改善する必要があることがひとつ、その他、大会企画、プログラム編集、大会受付、会場レイアウトなどに対して今後の合同大会運営に参考となる意見が多く寄せられました。これらの意見は今後、十分に吟味・整理して、次年度大会の運営に引き継ぎたいと考えています。これからの雪氷研究合同大会が、会員にとっても一般参加者にとっても有益で楽しめる催事に発展・定着することを期待しております。

以下にアンケートの主要な結果を円グラフでまとめて報告とします。

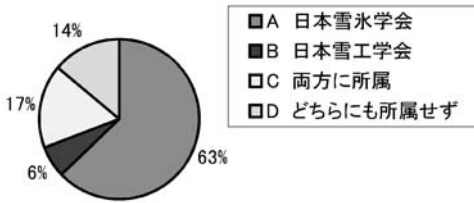


図 1 回答者の所属

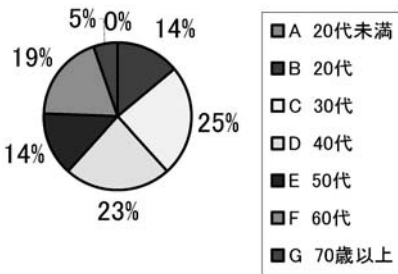


図 2 回答者の年齢層

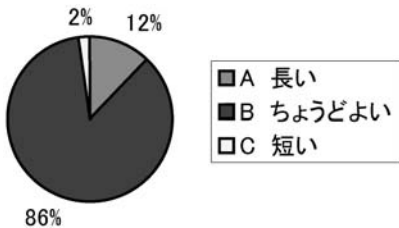


図 3 大会期間 4 日に対する意見
(長いという回答の中では 3 日の希望が多かった)

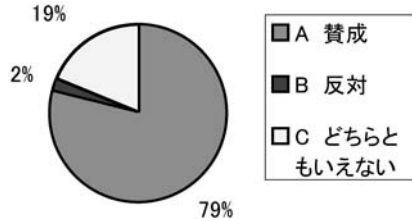


図 4 両学会合同の研究発表セッション設定について

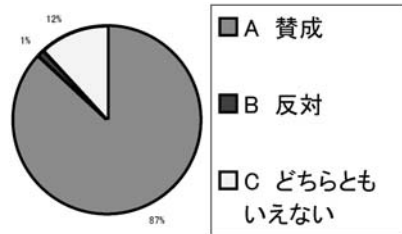


図 5 雪工学会パネルと雪氷学会分科会を両会員が聴講できるプログラムとしたことについて

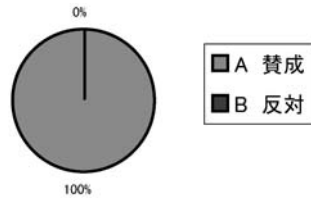


図 6 統一会計方式に対する意見

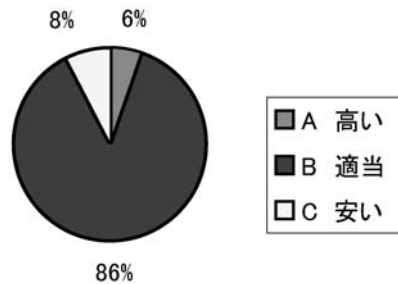


図 7 大会参加費の妥当性

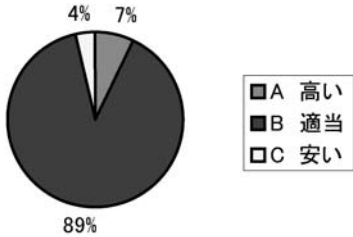


図 8 講演要旨集の価格について

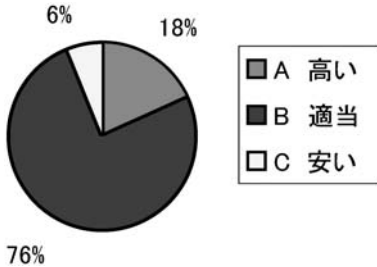


図 9 懇親会参加費について

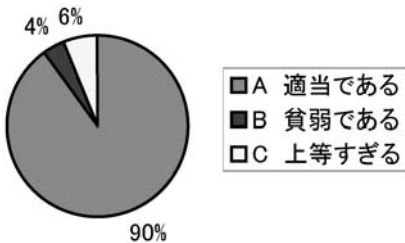


図 10 講演要旨集の紙質・印刷

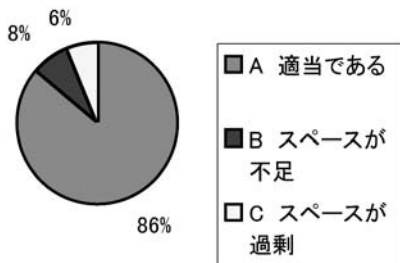


図 11 講演要旨集のスペース

■講演要旨集のフォーマット (文字サイズ, 段組, スタイルなど) に関する意見

1. もう少し大きめの活字がよい/ちょうどよい/増ページを望む
2. 形式が厳しすぎる. 著者の肩書き, 学位は不要ではないか
3. フォーマットはある程度自由の方がよい
4. フォーマットは幾つかパターンがあると思いますが, 現在のものは悪くないので, しばらくはこれを踏襲してはどうか.

■本大会についての感想・意見

1. 双方の学会が歩み寄って統一化すべきである. (同様の意見 14 件)
2. 合同開催を進められた実行委員会の英断に感謝します/合同開催という難しい問題をかなりクリアしていて苦労されたことを感じる
3. 今大会は全体として非常に良かったと思います/もっと, 「お祭り」的な要素を加えた方が, 人が集まり, 若い方の入会も増えるのでは? : 学術的要素・レベルはもちろん保ち, 一般の方も面白くて楽しい, そんな学会が理想と思われまます.
4. 発表会場などは快適でした/発表会場の机と椅子の間隔が狭い/ポスター会場が狭かった.
5. 口頭発表の時間が (12 分に) 伸びたのが良かった. この位の時間はぜひ確保して欲しい. /3 会場で口頭発表の時間が長くなったのは良い. しかし, 他分野の発表を聴く機会が少なくなった.
6. 分科会の時間がずれたのは素晴らしい. しかし, 3 会場パラレルなので, 聴きたいものが重なったり, 逆に暇な時間が出来てしまったり. プログラム編成にはもう少し改良の余地があると思います. /分科会を, セッションの間に挟むような時間帯に行うことにより, 二つの学会の融合 (異分野の交流) が一層活発になるように思う.
7. 分科会や臨時セッションなど, 個別会合が多すぎる.
8. 大会前日にも, 雪氷学会の分科会を開催できるようにして欲しい.

9. 雪氷学会も学会賞記念講演を行うべきである。
10. 要旨集に著者索引を載せて欲しい。
11. 会場にインターネット接続環境が欲しい。
12. 大会初日、受付手続きが滞った/名札の背景が色刷りで、名前など文字が読みにくかった。
13. 振込先名義が長すぎるし、不明確。簡明にして欲しい。
14. 懇親会は大会初日の夕刻がよいのでは。
15. 発表 9:15~12:00 で 1 回も休みが無いのは長すぎる。休みはディスカッションをする良い機会である。
16. 雪氷楽会が大成功で内容も素晴らしかった。

以上

（2008 年 11 月 29 日）